



妻西中キャラ めにしちゃん

学び磨き鍛える

正しい判断力とたくましい実践力を
もった妻沼西中生を育む学校

発行 熊谷市立妻沼西中学校
電話 048(588)1361
FAX 048(589)0496
令和8年1月27日
第25号

『埼玉県学力・学習状況調査からわかったこと』

校長 清水 利浩



埼玉県学力・学習状況調査は、皆さんのが5月に行った調査です。小学校4年生から中3まで国語と数学(算数)の教科を、中2と中3はさらに英語を加えて毎年行います。この調査は、皆さんのが1年間で学力がどれくらい伸びたかを測ることができる調査の1つです。県が、このたくさんのデータを分析し、その結果が公表されました。タブレットを用いて調査を行ったので、今までわからなかった結果が出てきました。2つ紹介します。

<どのような生徒の正答率が高いか>

タブレットで行うので、一人一人が問題に対してどのような解き方をしているのかがわかりました。どのような生徒の正答率が高いかというと、見直しをしっかりと行っている生徒だということがわかりました。何だか当たり前のようにですね。でもデータの分析からわかったことなので、しっかりと向き合わなければなりません。一度解いた後に見直して、繰り返し解いてみる、振り返ってみることが大切だということです。どうですか。意外としっかりと振り返っていなかったという皆さんもいると思います。

<正答率が高い生徒の学習方法と学習に向かうメンタルについて>

正答率の高い生徒は、こんな学習方法やメンタルを持っているということもわかりました。

- 1 ノートに書く、声を出すといった、作業を中心に学習を進める活動をしている。授業中では、ノートにしっかりと板書を書き写したり、自分の意見や考えを書いたりすること。これを、専門的な用語で、**作業方略**といいます。家庭学習(自主学習)では、予習や復習として、自主学習ノートを継続的に行ったり、できなかった問題を声を出しながら、ノートに書いたりすることでしょうか。
- 2 自己効力感が高いということ。これは、メンタル面です。自分はできる。実行できるという期待や自信をもっていることが大切です。自信がない、不安な気持ちはつきものですが、その気持ちに負けることなく、自分はできる、ここまで頑張ったのだから大丈夫!というプラスの気持ちが大切だということです。自己効力感を高めることは、部活動やクラブ活動でもいえることでしょう。また、中学校生活だけでなく、これから的人生、社会に出てからも大切なものだと言えそうです。

一つの調査からの分析にすぎませんが、作業方略と自己効力感、皆さんのこれから一つのキーワードにしてみましょう。

<参考>令和7年12月「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査報告書」、令和8年1月22日「令和7年度北部地区学力向上推進協議会」資料